



南九州市

議会だより

—MINAMIKYUSHUCITY—

第48号

令和元年
11月5日



手養小学校 閉校前の最後の運動会

【目次】

9月補正予算	P2	市民と語る会	P13
条例・人事案件	P4	平成30年度決算認定	P14
一般質問	P5	インタビュー	P16

9月定例会！ココに注目！

一般会計補正額
3億2711万円
補正後予算総額
226億6777万円

2億1894万円



八反畑上之町線



後岳川

6月30日から7月3日にかけての豪雨は、市内に大きな被害をもたらしました。市道、河川、農業用施設、諏訪公園法面など被災箇所の迅速で確実な復旧に取り組みます。

迅速で確実な復旧を

878万円



安全性の問題から、近くで見ることができなくなっている磨崖仏。貴重な観光資源を最大限に活かすため、展望デッキを設置します。建設費の約4割は、県の補助金を利用します。

岩屋公園に展望デッキ

9月定例会は、9月3日から10月2日までの30日間で開催されました。一般会計補正予算や平成30年度決算など23件を可決・認定しました。

30万円



JR九州が瀬娃大川駅付近の人道橋を撤去し、防護柵を設置するのに伴い、市も負担金を払います。議員から、他に危険箇所がないか質問したところ、残り2カ所あり、JRと自治会と協議していくとのことでした。

瀬娃大川駅付近の人道橋撤去へ

827万円



松くい虫の被害防止を図るため、鬼口・瀬娃文化会館周辺の松204本に薬剤の樹幹注入を行います。

松くい虫の被害防止

255万円



築20年以上が経過した川辺やすらぎの郷。多くの箇所で腐食劣化が進んでおり、修理が必要となっています。議員からは、今後の修理については長期的な計画を立てる必要性が指摘されました。

やすらぎの郷改修へ設計委託

159万円



施設の定期検査を行った結果、蓄電池型非常用照明に不良が発覚しました。停電時はもちろん、災害時の避難所となる知覧体育館。緊急性を鑑み、装置の取り換えを決定しました。

知覧体育館の非常用電源を修理

市民の声を行政に問う

一般質問 14人が登壇

議会会議録はこちらで見ることができます。

- ◎地区公民館
- ◎市立図書館
- ◎南九州市ホームページ

市長 現在、指宿スカイラインを迂回路としていますが、市民生活の影響は大きいと考えます。県から国へ災害復旧の申請を行っているため、市からの要望書提出は不

吉永 県道谷山知覧線は、7月の豪雨災害で崩落し、通行止めになっています。県は、指宿スカイラインを無料で通行できるように対応はしているが、市民からは不便の声を聞く。早期の復旧対応を県に要望する考えは。



吉永 賢三 議員

県道谷山知覧線

早期復旧を

市長／県から国へ災害復旧申請、仮設工事は、年内完成予定

要とのことである。また、仮設工事は、片側交互通行であるが年内に完成する見込みと、県から説明を受けている。市民の方からは早期復旧の要望の声を聞くが、市へ意見要望などの問い合わせがあるか。

市長 既に工事発注済みであるとのこと、工期は年内となっている。復旧作業のスケジュールは。災害復旧の申請



崩落した県道谷山知覧線

条例の制定・改正

南九州市消防団条例の一部改正

- ・「成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律」が施行されたことに伴い、成年被後見人等が不当に差別を受けないよう改正するもの。（原案可決）

南九州市立幼稚園保育料等徴収条例の廃止

- ・子ども・子育て支援法の一部改正に伴い、幼児教育・保育の無償化が10月から実施されることに伴い、条例を廃止するもの。（原案可決）

南九州市道路占用料徴収条例の一部改正

- ・県の道路占用料徴収条例が改正されたことに伴い、県の道路占用料額に準じて市も改正するもの。（原案可決）

その他の条例

- ・南九州市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正（原案可決）
- ・南九州市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正（原案可決）
- ・南九州市議会委員会条例の一部改正（原案可決）

南九州市印鑑条例の一部改正

- ・令和2年1月6日から住民票、印鑑登録証明書、課税所得証明書、所得証明書及び課税証明書をコンビニエンスストア等で交付するサービスを新たに実施するための改正。
また、社会においては旧姓を使用しながら活動する方々、特に女性の方々が増加している中で、様々な活動の場面で旧姓を使用しやすくするという女性活躍推進の観点から、印鑑登録証明書への旧氏の記載を可能にするもの。（原案可決）



<委員会が出された討論>

(反対討論)

マイナンバー制度そのものが、政府や企業に個人情報が流出することや国民に対しての管理統制が強まることが危惧される。マイナンバー制度の普及を推進することにつながるので反対。

(賛成討論)

条例改正は市民サービスの向上が目的で、開庁時間内の利用ができない方にとって、閉庁時にコンビニでの取得が可能となり、非常に利便性が高くなるので賛成。

発議

発議第1号
新たな過疎対策法の制定に関する意見書について
提出者 山下つきみ

<提出理由>

過疎地域自立支援措置法は令和3年3月末をもって失効することとなる。過疎地域においては、人口減少と高齢化は特に顕著であり、多くの自治体が消滅の危機に瀕するなど極めて深刻な状況である。

過疎地域に住む住民が安心安全に暮らせるために、引き続き総合的な過疎対策を充実強化させることが必要であり、新たに過疎対策法の制定を求める。

(原案可決)

人事案件

◆人権擁護委員◆

人権擁護委員は、市が議会の意見を求め、法務大臣に推薦します。

任期は、法務大臣が委嘱した日から3年間です。



江平 定氏
知覧町郡

を行い、審査の結果をもって工事に着手する計画である。

崩落が大規模のため、完成には相当な時間を要することのこと。

吉永 通行止めが続くと、通勤・通学・通院だけでなく、観光や商店街、自営業者等の売り上げなど市民生活に影響が大きいと考える。

市民の方からは早期復旧の要望の声を聞くが、市へ意見要望などの問い合わせがあるか。

市長 市に要望や道路の問い合わせについては聞いていないが、今後、早期復旧に向けて、県と連携を取りながら進めていく。

会計年度任用 職員制度

制度導入の取り組み状況を問う

市長／必要な職の勤務条件を示し、募集を行う



大倉野 由美子 議員

大倉野 来年4月から導入される会計年度任用職員について、対象となる非正規職員の人数は何人か。

市長 地方公務員法第22条の2に規定される職員は220人余りで、一般事務補助、税務相談員、登記事務など40を超える職種を予定している。

大倉野 非正規職員の処遇改善が、制度導入の目的だが、各職場の実態調査を行ったか。

また、取り組みの状況について問う。

市長

総務課で関係課等から聞き取りを行った。その中で対象職員へ聞き取り調査を行った課もある。

パートタイムの職を想定している鹿児島県や近隣市町村の検討状況を参考に、本市でもパートタイムの職を想定している。職に必要な人数、勤務時間、報酬額を決めて、今後、関係部署との協議を踏まえて、来年度から必要な職の勤務条件を示して、募集を行う。

その他の質問
障がい者控除対象者認定制度
放課後児童クラブ



投票所を元に戻す考えはないか

選管委員長／元に戻す考えはない

大倉野

投票率の低下は、投票所の削減が影響していると考えるが、元に戻す考えはないか。

選挙管理委員会委員長

投票所の老朽化、バリアフリーの問題、投票事務従事者の確保が困難になる。これまで投票所のあった施設を中心に移動期日前投票所を開設しており、投票の機会は確保されている。元に戻す考えはない。

健康づくり

既存施設にトレーニングルームの設置を

市長／調査研究していく



山下 つきみ 議員

今後、調査研究していく。
県立保健看護学校跡地を技能実習生の研修施設として活用を
市長／申し出があれば県へ取り次ぐ

山下

本市において、貴重な労働力となっている外国人労働者、特に技能実習生は制度改正によ



現在の保健看護学校跡地

り今後、さらに増加することが予想される。他自治体でも需要増に向けた取り組みが広がっている。本市でもニーズ調査など実施しながら、保健看護学校跡地を在留中の研修所や宿舍として活用できるよう、県や監理団体と協議を進める考えはないか。

市長

6月議会で市企業立地促進条例の対象事業に監理団体を追加する条例改正を行った。保健看護学校跡地は県有地であることから、申し出があれば県へ取り次ぐ。

県立薩南病院 移転候補地

川辺地域の民有地を提案した経緯は

市長／南薩地域全体の医療に最適と判断



菊永 忠行 議員

菊永 新薩南病院基本構想策定委員会、候補地として、川辺地域の民有地を提案した経緯を問う。

市長

県立薩南病院は、老朽化が進んでおり、H28年3月に病院のあり方検討委員会において、小児科・産婦人科・整形外科の再開や建物整備が必要であることが提案され、建て替える場合、本市川辺地域を移転先候補地とした経営シミュレーションも示されていた。第一回基本構想策定委

員会で、候補地として本市知覧地域の県立保健看護学校跡地、南さつま市村原の県有地、同市敬老園跡地の3カ所が挙げられた。

選定理由は、一定以上の面積があり、用地取得が容易に行えること、取得費用が抑制できることとであった。

その他の質問
・汐見原地区の農地開発事業



新薩南病院建設予定地（南さつま市加世田村原）

塗木市政 1期4年

成果と課題を踏まえ、今後のビジョンと具体策は

市長／市民が豊かで暮らしやすいまちづくりを実施したい



日置 友幸 議員

日置 塗木市政1期4年間の成果と課題は何か。また、今後のビジョンと具体策は。

市長

成果として、

- 「多様な手法の懇談会」
- 「自治会サポーター制度」
- 「地区コミュニティ制度」
- 「農業基盤の整備」
- 「知覧茶統一」
- 「観光新規事業」
- 「お試し居住」
- 「行財政改革」がある。課題として、
- 「農地の基盤整備」
- 「観光の低迷」
- 「人口減少」

「子育て政策」がある。

今後は、市民が主役のまちづくりを継続し、観光の活性化を図り、子育て対策を進め、行財政改革を実行する。

日置

今後、市長が「これだけは実現したい」とは何か。具体策は。

市長

行財政改革を進めたい。三地域の融和を図り市政を発展させたい。また、農地を整備することで建設業等も発展する。一石二鳥だ。そして、不要な事業を合理化したい。

日置

重要なのは実現するための具体策だ。繰り返しになるが、今後に向けての具体的な施策を示して頂きたい。

市長

市民が豊かで暮らしやすいまちづくりのための施策をどんどん実施したい。



市長とまちなかミーティングの様子

水田基盤整備

農業用施設の更新に対する支援は

市長／事業進捗を図るための専門職員の設置を検討



大倉野 忠浩 議員

する。

地域の課題解決を

市長／地区コミュニティ・プラットフォーム構築事業に取り組んでいる

大倉野 農業用施設の更新について、事業が進まない現状と要因は。

市長 地域から要望があるが、近年の補助事業は実施要件が厳しく、事業採択までに3～4年を要する。

大倉野 事業進捗を図るため、要因に特化した解決策を講じる考えは。

市長 地域支援対策事業を活用し、地域の状況や課題を整理しながら専門的立場から支援を行う。事業進捗を図るための専門職員の設置を検討



広がる水田

市長 本市の人口は合併後約7千人減少し、高齢化率が50%を超えている自治会が77あり、今後、更に深刻化すると予想される。

このような状況を踏まえ、地区コミュニティ・プラットフォーム事業に取り組んでいる。

大倉野 事業の進捗状況と今後の取り組みは。

市長 集落支援員を2名採用し、助言指導を行う。少子高齢化に伴う自治組織の再編や行事の見直し、高齢者や子育て対策、移住定住対策について住民自らが考え行動できるようサポートする。

道路の安全対策

白線の整備を

市長／優先順位を付け整備



竹迫 毅 議員

意喚起のマーキングなど優先順位を付け整備し、1路線でも多くの市道の安全確保を行う。国道道については、強く要望している。

竹迫 特に高齢者は白内障等で、白線がなければ運転がしづらく危ないこともある。

高齢者の運転免許証返納も言われているが、車がなければ、生活に困るのが現実である。
今後、高齢者が1年でも長く運転できるように自動運転や運転アシスト等にも対応できて高齢者にやさしい道路づくりが必要ではないか。

市長 技術開発は日進月歩である。特にセンターラインは正面衝突の恐れがあるため、優先して行う。

その他の質問
・潮害防備保安林の整備



白線が消えかけている道路

竹迫 市内の幹線道路等でセンターラインや路側等の白線が消えているところが散見される。
安全確保のため、早急に整備する考えはないか。

市長 道路のセンターラインや外側線は、道路の利用者にとって指標となるもので、安全対策上必要であると認識している。

通行量の多い路線では8年から10年で消える箇所もあり、十分に対応できていないのが現状である。幹線道路のセンターラインや通学路の外側線、注

下水道事業

課題と対策は

市長／公営企業会計に移行する準備を進めている



米満 孝二 議員

米満 農業集落排水事業及び公共下水道事業について、現状と課題をどう捉え、今後、どのような運営を行っているか。

市長 老朽化に伴う施設の更新や施設建設に要した地方債の償還など課題もある。

国の指導により令和2年度より公営企業会計に移行するため、年度内の条例改正に向けた準備を進めている。
米満 汚泥処理について、他市では堆肥とし



知覧中央浄化センターの終末処理場

て再利用する取組みが行われているが、本市で取り組む考えはないか。

市長 発生した汚泥を無償で肥料として使用してもらうモニタリング調査を行ったが、利用は困難と判断された経緯がある。
今後、民間堆肥業者等

から需要があれば検討する。
米満 高齢者にとつて、ごみステーションまでのごみ出しは困難と聞く。今後の対策を問う。

市長 民間団体等への事業委託を可能とする訪問型サービスの基準を緩和した事業の構築を検討する。

夢・風の里 アグリランドえい

より積極的な企業誘致を

市長／現在、民間事業者の公募を行っている



浜田 茂久 議員

浜田 地方創生の柱となる「夢・風の里アグリランドえい」の存続のため、従来の農業体験、遊戯、休養を目的としたレクリエーション利用に対し、未来型の保養リゾート施設として総合的活用を考える企業の誘致をより積極的に取り組む考えはないか。

市長 アグリランドえいの管理運営については、H30年3月に市民等で構成する「夢・風の里アグリランドえい活用検討委員会」の答申を受け、民間事

業者との対話による事業の実現性や、アイデアを探るサウンディング市場調査を実施した。

現在、その結果をもとに民間事業者の公募を9月20日まで行っている段階である。

今後、提出される企画提案書を基に、プレゼンテーションやヒアリングを実施し、選定委員会で優先交渉権者の決定を行っている。と考えている。



夢・風の里 アグリランドえい

医療費適正化

どのような施策を展開する考えか

市長／健康に対する意識付けが重要



松久保 正毅 議員

していく考えか。

市長 医療費増加の主な原因は、高齢者の増加と医療技術の進歩により長期入院等が増加していることであると考えられる。

市では、市民の健康と医療費節減を目標に、特定健診や各種がん検診など12項目の医療費適正化事業に取り組んでいる。若年層からの健康に

松久保 国民健康保険の医療費総額の推移をみると、被保険者の減少等によりH27年度50億8千万円、28年度50億2千万円、29年度49億8千万円と3年連続して減少している。

一方、一人当たりの医療費は年々増加しており、29年度では県平均より約3万円多い46万857円となっている。

6月定例会での文教厚生常任委員会の提言を踏まえ、どのような医療費適正化に係る施策を展開



みずほ団地の未処分区画

参考として、市の分譲団地の未処分区画52カ所に市営住宅を建設し、10年間住み続けたら、土地・建物が無償譲渡する企画は考えられないか。

市長 市外居住者が市の分譲団地を購入して家を取得した場合、通常の移住定住対策補助金に100万円を加算して交付するなど販売促進を図っている。

一戸建ての市営住宅の企画は、市の負担が大きいが、移住定住の観点から今後検討する。

今後の取組みは

市長／情報提供などに努め、対策を進める

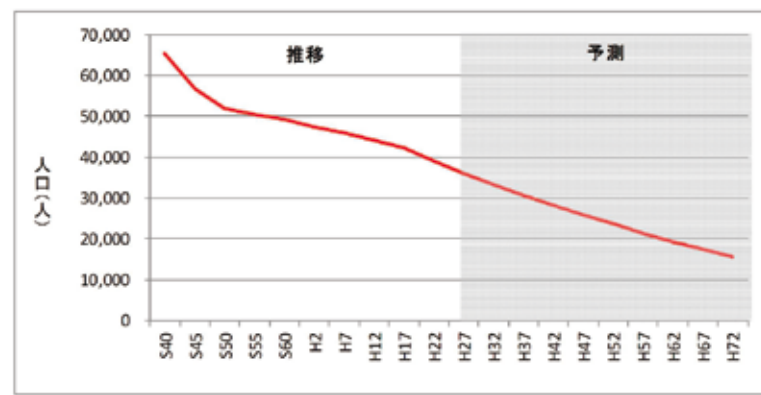


満留 秀昭 議員

応に努め、一人でも多くの方に本市の市民となっていた、たくよう対策を進めていく。

満留 南九州市発展のためにどのような施策が最重要と考えるか。

本市にとっての最重要施策は
市長／産業の振興など



※「国勢調査」「将来推計用ワークシート」より作成

人口減少の推移と予測（南九州市人口ビジョンより）

災害時の避難対策

福祉避難所開設を優先に

市長／検討する



西 次雄 議員

避難所の運営で生じた課題を基に、所管課で検証を行っている。

西 高齢者や災害弱者

が畳の部屋に入らず、いすで一晩過ごしたことで体調を崩したと聞いた。避難勧告等はまず福祉避難所を開設し、災害弱者等に配慮すべきではないか。

市長 災害弱者等が避難できる福祉避難所を先に開設するよう、今後検討する。

確保に向けた施策は

市長／就農初期の経営負担軽減を図る



内園 知恵子 議員

主要農産物種子法廃止の影響は
市長／影響はない

内園 主要農産物種子法が廃止されたが、本市の米、麦、大豆にどのような影響があるか。

条例を制定し、種子の品質確保等を図っている例もみられるが、条例制定を鹿児島県に要望する考えはないか。

市長 鹿児島県主要作物種子生産・普及促進基本要綱に基づき、要領に引き継がれ、種子の品質は種苗法と農産物検査により担保されている。

今後、県による米、麦、大豆の種子の研究開発が阻害されることはなく、生産農家への安定供給などの影響はないと考えている。

また、他県においては



7月の豪雨で多くの方が避難した川辺中体育館

西 7月豪雨で市内に避難勧告や避難指示が出され、一部の避難所に多くの住民が避難したことで混乱が生じたと聞く。

今回の避難指示等の検証を行ったか。

市長 7月2日に知覧・川辺地域に、3日に頰娃地域に避難勧告を発令し、一時避難所を市内22カ所に開設した。

3日16時40分には川辺地域に避難指示を発令し、避難所2カ所を追加し、最大で17施設に383人が避難した。



農作業に励む新規就農者

内園 南の食料供給基地として、産地を維持するため、新規就農者の確保が重要と考える。

どのような施策を講じる考えか。

市長 農業を志す若者の背中を押し、地域での活躍を支援する取組みが大変重要である。

国の次世代人材投資資金や市の単独事業である就農奨励金を活用し、就農初期の経営負担の軽減や各種補助事業の導入、営農指導の支援を行っている。

市民と語る会 3団体と開催

南九州市議会では、皆様からのご意見を市政に反映させるために、市民と語る会を実施しています。市民の皆様からいただいた意見を基に、要望書を市長に提出しましたので、紹介します。



スポーツ推進委員会



額娃地区畑地かんがい営農振興会



薩摩鶏心会

本市の畜産部門の生産額は県内でも上位であるが、養鶏業では鶏糞の処理が経営を圧迫しており、成分等の問題で堆肥としてのリサイクル制限がある。他の畜養との調整や耕種部門のニーズなどを集約し、本市の耕畜連携が効率的に機能するように支援していただきたい。

耕畜連携の推進

農業従事者の高齢化が進む中、労働力不足は重要な課題である。地域の実情に即した担い手の確保・育成をすすめながら、不足する労働力を補うため、外国人技能実習生制度等を活用し、その受入体制の整備を図っていただきたい。

労働力不足の確保

農業の後継者問題は喫緊の課題であり、後継者の確保のためには農業者の所得向上が欠かせない。高収益作物の調査研究、優良農地の確保、農業施設の更新などを支援し、また国県の補助事業などを積極的に導入していただきたい。

後継者不足解消

畑かん事業の今後の課題

営農振興会は、畑かん営農の推進及びほ場環境の整備など地域の農業に大きな役割を担っている。畑かん事業は事業開始から40年以上が経過した中で、受益者の要望に即した利用のあり方など関係機関と協力しながら推進していただきたい。

体育施設等の整備

体育施設等が老朽化し、更新の時期を迎えようとしている。長期的な視点で施設整備計画を策定し、さまざまな大会等が開催できるよう総合体育館などを整備していただきたい。



国体リハーサル大会で活躍するボランティアの方々

健康とスポーツ推進

近年、市民のスポーツ離れが見られる。市全体で健康づくりとスポーツ推進に取り組むよう「健康と運動を考える日」を設定するとともに、子どもから高齢者まで運動に親しむことのできる環境を整備していただきたい。

国体のPRや市民への周知

国体に向けて、各団体等へ協力依頼があるが、様々な活動や取組みについての説明が不十分ではないのかが見えてこない。国体のPRや関連する事業の市民への周知が不足しており、国体に対する市民の機運が高まっていない。国体を市全体で盛り上げるためのPRや事業の周知などに取り組んでいただきたい。

幼保無償化

準備は万全か

市長／円滑な制度開始に努める



蔵元 慎一 議員

には、近日中にパンフレットを配布する予定である。
蔵元 給食費に係る変更手続等に関して懸念される問題等はないか。
市長 国は、食材料費

については、施設による実費徴収を基本とする方針を示した。保育所は新たな事務が発生し、徴収方法、保護者への対応等の問題が予測される。諸事務に必要な情報提供や説明を行い、各園のスムーズな制度導入を支援していく。

その他の質問

・知覧ごみ中継所
 ・高校生の通学バス利用
 ・県立保健看護学校跡地

蔵元 10月に消費税率が10%に引き上げられる。これに合わせ、幼保無償化が実施されることになった。
 制度開始までの利用者への情報提供及び施設管理者への説明はどのように進められているか。
市長 7月9日には施設管理者への説明会を実施し、制度への理解・周知を図った。広報誌8月号への掲載と同時に市のホームページにも掲載し、情報提供を行ったほか、保育所等の利用世帯



10月から幼保無償化実施

議会を傍聴してみませんか

次の議会は11月20日(水)開会予定

※12月に市長・市議会議員選挙が行われるため、11月に開会されます。

*手続き簡単 本館2階で住所・氏名を書くだけ

12月定例会

11月20日	本会議（開会）	補正予算等質疑・委員会付託，一般質問
21日	本会議	一般質問
22日	常任委員会	補正予算等審査
29日	本会議（閉会）	補正予算等採決

◆議会中継◆ インターネット配信または各庁舎ロビーでご覧いただけます。

〈特別会計決算状況〉

区 分	歳 入	歳 出
国民健康保険	58億8843万円	58億4118万円
後期高齢者医療	5億4037万円	5億3945万円
介護保険	53億 605万円	50億9840万円
農業集落排水	7645万円	7357万円
公共下水道	1億4568万円	1億3096万円

〈企業会計決算状況〉

水 道 事 業	歳 入	歳 出
収益的収支	6億9693万円	6億6092万円
資本的収支	1億8000万円	5億3025万円



健康教室「すっきりスリム大作戦」でメタボ予防を

特別会計

国民健康保険事業

委員会から

本市の国保税が高い（一人当たりの調定額は10万6千円で県内で一番高い）ことは、医療費が高い（一人当たり46万5千円、県平均43万円、全国平均36万2千円）ことに一因があると考えられる。医療費抑制に向け、さらに市民と一丸となつて取り組んでいただきたい。

後期高齢者医療

本市の一人当たりの医療費は120万9千円で、依然として県及び全国より高い状況にある。

問 医療費を抑制するためにどのような事業を行っているか。
答 広域連合からの委託を受け、重複頻回受診者への訪問指導や保健センターでの長寿健診等を日常的に行っている。

介護保険事業

問 地域活動を行うボランティア育成のための研修会の実施状況と評価について。
答 市内に約90カ所ある高齢者サロン等のリーダーを集め、活動を継続していくための研修会等を行っている。研修会ではレクリエーションの方法や健康づくりの講話など知識や技術を学んでおり出席率も良い。

公共下水道事業

問 今後も加入戸数の増加が見込まれる中、現在の施設の処理能力で対応できるか。
答 H27年度のピーク時において計画処理能力の6割程度で、十分余裕がある。接続人口4千人までは処理能力に問題は無い。

農業集落排水事業

問 施設の経過年数と修繕の状況について。
答 供用開始から川辺東部が22年、知覧垂水が12年、知覧瀬世上が21年経過しており、大きな修繕もなく部分的な修繕で済んでいる。

水道事業

問 老朽化した配水管の更新計画は。
答 40年経過した老朽管が80キロメートルあり、年間約4キロメートル更新している。今後も漏水の多い地域、口径の大きい地域を優先して年次的に進めていく。

問 本年9月の台風災害では、千葉県において長期間水道の供給が停止している地域があった。本市の水源地の非常用電源の整備状況は。
答 今年度知覧地域、知覧地域の2カ所を整備することで浄水場の整備率は100パーセントとなり、台風等により停電が発生した場合でも水を供給できる体制は整備されている。

〈一般会計決算状況〉

歳入総額	223億2642万円
歳出総額	216億5645万円
不納欠損額	1601万円
収入未済額	6億1704万円
次年度繰越額	3億1397万円
実質収支	6億2797万円

問 現在3つの公民館をモデル地区としているがその進捗状況は。
答 10年間の地区振興計画を協議し、本年度3月までに計画書を作成し地区内全戸に配布する予定である。

集落支援員設置事業費 345万円
市内各地区公民館のコミュニティ・プラットフォーム構築に向けて、指導・助言を行うための集落支援員の設置に係る経費。

総務費

一般会計

地域交通対策事業費（バス対策事業費） 6091万円

ひまわりバス及び予約型乗合タクシー試験運行に係る経費。

問 予約型乗合タクシー試験運行の結果、今後の方策は。
答 試験運行した路線では今年10月から実施していく予定である。



住んでみよう応援事業費 32万円

独身男女の出会い応援事業と出会いサポータークラブへの補助。

問 成果は。
答 出会いサポーター倶楽部を昨年7月に結成し会員を確保したが、カップル成立には至らなかった。出会い応援事業ではカップル13組が成立した。

民生費

老人福祉センター管理運営費 453万円

高齢者等の各種相談や健康増進、教養の向上及びレクリエーションの利便に供する場としての老人福祉センターの管理運営に係る経費。

問 今後のあり方は。
答 施設の老朽化が進んでいることから知覧に集約するか、今後5カ年のうちに検討する。



老朽化が進んでいる頼娃老人福祉センター

農林水産業費

知覧茶ブランド力強化対策事業費 2149万円

「お茶のまち・南九州市」としての知名度と、知覧茶ブランド力向上を図るため、まるごとにつぼん（東京浅草）への出展と、健康づくりの分野と連携したサプリメント新商品開発などに係る経費。

問 茶の価格低迷に伴う茶業農家の現状と将来展望は。
答 ここ数年厳しい中で、生き残る産地として経費削減、茶工場の再編、管理作業の協業化等対策を図り、継続的なブランド強化とPRに努めたい。

委員会から
南九州市にとって茶業の発展は欠かせない。茶業振興会と連携を図りながら将来的な展望を見据えた生産意欲の高揚を図っていただきたい。

消防費

消防施設費 8428万円

消防団の拠点施設の整備、防火水槽・消火栓の新設工事等に係る経費。

問 消防団再編の進捗状況は。
答 消防団の幹部会等に説明会を開催し、現在頼娃方面隊青戸分団と新牧分団の再編に取組んでいる。

総括

委員会から
各施設の老朽化が進み莫大な管理費が必要となってくることから、事業存続を含めた今後の取り組みについて真剣に検討していただきたい。
また、少子高齢化に伴い地域の課題は様々なことから、各事業を見直し、今後の対策を図っていただきたい。



大木場 宏(おおこば ひろし)さん

大正4年(1915年)、旧川辺村神楽に生まれる。県立川辺中学校(現・川辺高校)卒業後、民間企業に勤務。その後召集令状が届き陸軍に入隊。終戦後、故郷に戻り川辺町役場に勤務。御年104歳。今年9月の敬老会にも、しっかり出席。

インタビュー

4つの時代を生きて

大木場 宏さん

大正4年生まれ104歳

大正・昭和・平成・令和の4つの時代を生きる大木場さんは川辺町神楽にお住まいです。変化の著しいこの時代、古きを知る長老は、今と未来に何を思うのでしょうか。

(聞き手 鮫島・日置・内園)

——4つの時代を生きてこられた大木場さんですが、長い人生で驚かれたことやご苦労されたことは何でしょうか。

大木場 戦争では召集令状により陸軍に入隊し、満州に配属されました。終戦間際のソ連侵攻により、多くの仲間がシベリアに抑留されたことを覚えて

います。

戦後は川辺町役場の建設課に勤めました。当時は砂利道が多く、道に空いた穴などの対応に苦労しました。

——戦後の勝目村と川辺町の合併、平成19年の3町合併と、2度の合併を経験されました。合併をどう思われますか。

大木場 勝目村との合併の時、私の周りでは大きな変化はありませんでしたが、勝目村ではいろいろ議論があったように聞いています。

3町合併についても暮らしに大きな変化はありません。

庁舎を建て直す話を聞きました。今あるものを大切にしたいと思っています。

——大木場さんが生きてこられた1世紀は、女性の社会進出が進んだ1世紀

でした。このことについて何か思いはあるのでしょうか。

大木場 川辺町時代、知り合いの女性が町議になりましたが、何も思いませんでした。(女性が議員になるのは当然だというニュアンスでした。)

——平成27年に、地元神楽小学校が閉校となりました。どう思われましたか。

大木場 学校が無くなったことよりも、子どもがどんどん減っていることを悲しく思います。

——最後に、市議会に一言お願いします。

大木場 管理する人のいない畑が増え、道を覆う草がたくさんあります。市議会の力で解決されることを望みます。



編集後記

市民体育大会の一コマ。長縄跳びの回数を子どもたちが競います。どの地区の子どもたちも1位を目指して練習を積んできました。

競技中、首位の記録が90回越えとのアナウンス。1位を目指して跳び続ける子どもたちに、残り30秒でミスが出ます。「もう今から飛んでも1位にならない」子どもたちの誰もがそれをわかっていました。それでも彼らは一切手を抜かず、残された30秒を一生懸命に跳び続けました。

私はその30秒に胸を打たれました。子どもたちの真つすぐな心の、なんと尊いことか。子どもたちのジャンプに、南九州市の未来の飛躍を確信した市民体育大会でした。

(日置)

▼広報編集委員会

委員長 鮫島 信行
副委員長 日置 友幸
委員 米満 孝二
大久保太智
内園知恵子
松久保正毅